

第三部「科学技術の光と影を生活者との対話から明らかにする」分科会
(第 24 期・第 4 回)

議事要旨

日時：令和 2 年 8 月 6 日(木) 11:00～11:30

場所：Web 会議

出席者：徳田秀幸、梶田隆章、加藤昌子、渡辺美代子、山口 周、米田雅子、浅見真理、大西公平、大野英男、坪井 俊、藤井孝蔵、高橋桂子、(オブザーバー) 田近英一、

議事次第：

- 1) 前回議事要旨の確認
- 2) 今後の議論すべきテーマについて
- 3) 今後の分科会活動について
- 4) その他

配布資料：

資料 1 前回(第 3 回)議事要旨

議事録：

- 1) 前回議事要旨の確認

前回の議事録を確認し、承認した。

- 2) 今後の議論すべきテーマについて および 3) 今後の分科会活動について

徳田委員長より、第 24 期に開催した過去 2 回のシンポジウムを振り返るとともに、本日午後に開催されるシンポジウムが紹介され、それらの情報をもとに、今後に繋げるための意見交換を行った。

意見交換：

- ・ 光と影を意識したシンポジウムは前期の 2 回目からで、今回で 5 回目である。高校生の参加も 2016 年からのシンポジウムであった。高校生の活発な鋭い質問もあり、開催できて良かったと考える。
- ・ 第 23 期、第 24 期を振り返ると、科学は光だけでなく、影もあるのだというテーマを高校生とともに考えることは、普遍的なテーマであったこともあり、意義があった。25 期においても継続ができればと考える。
- ・ 高校生との交流は、第 3 部の特徴にもなっており、よい活動ができたと思う。
- ・ 第 24 期のシンポジウムは 3 回ともテーマを魅力的であった。生活者からの視点を入れ

られているかどうか。テーマはもう少し短くてもよいのではないかと思う。

- ・ このような活動は来期も継続してほしい。
- ・ 21 世紀は、テクノロジーそのものが生活の中に直接入ってきている。その中で、テクノロジーそのものが我々の生活にどう影響をあたえるか、が問題であり、それは我々がどう生きていくか、ということに繋がる。一方、産業界では熟練の技術が少なくなってきたおり、人間だけが持っている様々な能力が機械化され、我々の世界の中での反発と共感を得ている。テクノロジーそのものを我々がどう活かして行くか、という生き方そのものに関連する課題があると思う。第 25 期においては、そのような議論していただければ有意義ではないかと考える。
- ・ 高校生の参加に加えて、様々な参加の仕方も加えて、さらに全国から参加されてもらえるようにし、皆さんに議論に参加してもらえる場を提供することに意義がある。
- ・ 続けていくべき活動である。これからの科学技術を考えるうえで、とても刺激的で考えさせられる内容であった。モノと情報と人間感情がどのように関係し、高まって、科学技術が発展するのか、という内容に、特に東北大学のシンポジウム内容に、とても刺激を受けた。これからの科学技術の発展を議論できる場にしてほしい。
- ・ 光と影という大きなテーマを扱う点、いろいろなところから参加できる利点、光と影という普遍的なテーマを取り上げている点、を生かして、様々な方に参加してほしい。第 3 回の議事録最後部分にデータに関してのコメントがあるが、デジタルツイン社会におけるデータ収集やデータの信頼性についても、今後取り上げてほしい。
- ・ データのオープン戦略についても、これからの大きなテーマとなる。Covit-19 関連においてもデータの精確さやリアルタイム性についての課題もあり、取り上げる必要がある。
- ・ 「光と影」という影の部分はどう扱うか、今後かんがえていただきたい。生活者との関係は、あるいは社会との関係、いうことになるのかもしれない。今後検討の余地がある。
- ・ 光と影は普遍的なテーマであり、高校生の参加も重要、さらに切り口も多様である。今後是非続けていただきたい。

加えて、

- ・ 本日のシンポジウムの講演内容と総合討論、高校生との議論の期待について、徳田委員長から紹介があった。

また、

- ・ 現在取りまとめている記録と第 4 回議事録については、委員長一任で取りまとめることを全員一致で承認した。

4) その他

特になし。

以上をもって閉会した。

以上。